

# 警備会社救急救命士

# 警備員救急救命士の業務 (Security paramedic)

- 救急通報の受信と救護対応
- 警備員に対する心肺蘇生法・応急処置等の指導
  - 心肺蘇生法・AED使用方法
  - 外傷に対する止血・骨折固定処置
  - 傷病者の搬送方法
- AED設置営業・コロナウイルス感染防止アドバイス

2023/1/12



# 空港における警備会社救急救命士の救護対応例



M C 医師による指示

消防との連携



空港内クリニック



傷病者発生



早期の現場到着・処置

- ・緊急度判断
- ・救急救命士による応急処置



病院

セコムのメディカルコントロール体制のもと、バイスタンダーとして判断・処置を行うことで救命率の向上に繋げる。

国際空港あたりの年間心肺停止の発生数は平均**41件**（日本全国では約**13万件・年**）

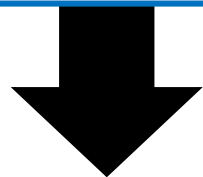
- ・ 院外心肺停止発生率は10万人当たりで**年間0.024人**
- ・ **空港での生存率は他の場所での心停止よりもはるかに高く、**  
**AEDの使用が蘇生率の改善に寄与していた。**

### 東京国際空港

バイスタンダーCPR実施率：85.7%  
PAD実施率：45.7%  
10000m<sup>2</sup>あたりのAED台数：2.4台

救急隊

覚知～現着 **17±14分**  
現着～接触 **6±8分**



一林らの報告では、救急車  
要請から病院到着までの時間  
は空港から平均50.8分

空港の構造上の問題で通常の救急搬送と比べ**12分も長い**

### 成田国際空港

バイスタンダーCPR実施率：66.7%  
PAD実施率：**13.3%**  
10000m<sup>2</sup>あたりのAED台数：**0.5台**

救急隊

覚知～現着 **16±8分**  
現着～接触 **4±6分**



AEDの設置が少なく使用率が低い

空港内で発生する体調不良者に迅速に対応するためには、空港に所属する救急救命士の存在が重要で、バイスタンダーの処置を引き継ぎ、救急隊が到着する間に空港内救急救命士が現場で活躍するシステム構築が重要である